

国文学研究資料館特別展示

# 伊勢物語の かがやき

— 鉄心斎文庫の世界 —



はみふらうせは  
昔おとこもわむまはり  
人をもちくちりこそ  
いまういゆる志  
さきげはのよはとぬ



鉄心斎文庫

## ごあいさつ

このたび、特別展示「伊勢物語のかがやき―鉄心齋文庫の世界―」を開催いたします。

鉄心齋文庫は、三和テツキ株式会社社長であった芦澤新二氏が、美佐子夫人とともに四十年の歳月をかけて収集した、『伊勢物語』に特化した一大コレクションです。

二〇一六年三月、鉄心齋文庫の『伊勢物語』資料約一千点が、国文学研究資料館に寄贈されました。その後、当館では基幹研究「鉄心齋文庫伊勢物語資料の基礎的研究」を進めてきました。今回の特別展は、基幹研究の一環としての展示であり、また当館の所蔵となった鉄心齋文庫の本格的なお披露目となります。

この特別展を通じて、『伊勢物語』の持つ多彩な魅力にぜひ触れていただきたいと思います。

最後に、この展示に後援を賜りました中古文学会・読売新聞社に厚く御礼申し上げます。

国文学研究資料館館長　ロバートキャンベル

千点を超える膨大な鉄心齋文庫の伊勢物語コレクションを収集されたのは、株式会社三和テッキの社長であった芦澤新二氏と、その没後に社長を継がれた美佐子夫人のご夫婦お二人である。

芦澤新二氏は、大正十三年（一九二四）生まれ。山梨県中巨摩郡西野町（現南アルプス市）の旧家のご出身である。昭和十九年（一九四四）、明治大学在学中に海軍に召集され、予備学校教育部を経て、魚雷による特攻部隊に入る予定だったところ変更になって終戦となり、復学された明治大学で学生雑誌『駿台論潮』の編集長として活躍された。その編集メンバーの後輩の一人が、美佐子夫人だった。熱烈な恋愛の結果、新聞記者志望だった芦澤氏は、美佐子夫人のお父様が経営しておられた会社を継ぐことになった。

それ以前、体調を崩して転地療養していた後輩の美佐子さんに、芦澤氏は退屈しのぎの読み物として、賀茂真淵が書いた注釈書『伊勢物語古意』の版本を贈られたという。さらにそれ以前、芦澤氏は旧制中学で習った伊勢物語の「東下り」に強く感動され、すぐに文庫本の伊勢物語を買って全文を読まれたともいう。芦澤氏ご夫妻と伊勢物語は早くから、深いところまでつながっていた。

お二人のご結婚は昭和二十四年（一九四九）のことだったが、そのころ、東京大学の前の古書店の店頭に、「阿波国文庫」<sup>あわのくにぶんこ</sup>「不忍文庫」<sup>しのばすぶんこ</sup>の二つの蔵書印が押された伊勢物語の写本七点が、一括して三千元（ほぼ当時の大卒初任給の額）あまりで置かれ

ているのを偶然発見した芦澤氏は、すぐにそれを入手された。芦澤氏は後の御著書『好古拾遺』<sup>こうこしゆい</sup>（三和新聞社・昭和四十七年）の中で「このときの喜びは今でも忘れられないほどである」と述べておられる。これが、膨大な伊勢物語コレクションの、実質的な始まりだった。

芦澤氏は、わけあって故郷を離れ、京都の地で旧制中学時代をすごされた。「中学時代の友達」という文章（『京都府立第二中学校五十周年記念誌』、後に『天愛不息―芦澤新二を偲ぶ―』三和テッキ株式会社・平成二年に収録）の中で氏は、京都二中夜間部時代の「同級生四十余名」のほとんど全員が、ご自分の下宿に来て「議論したり、遊んだり」したことを記され、「ぼくの下宿は、誰からともなく『水滸伝』<sup>すいこでん</sup>の梁山泊に擬せられ、いつの間にか夜中の英雄豪傑の溜り場になっていた」と書いておられる。鉄心齋文庫にたどりつき、そこに安住の地を得た数多くの伊勢物語の名品たち、たとえば先に述べた「阿波国文庫」旧蔵本たちもまた、世の変転を生き抜いた英雄豪傑として、芦澤氏の梁山泊に温かく迎えられたように思われる。

伊勢物語の収集には美佐子夫人の協力も大きく、鉄心齋文庫は、ご夫婦お二人の文庫として成長していった。伊勢物語は自分たちにとって「子供のようなものと思っている」と、芦澤氏は『好古拾遺』に書いておられる。そしてさらに、「これらの蔵書は子供がみな個性があるように、それぞれ特徴をもっている……こうした点を比べるだけでも興味はつきない」とも述べておられる。鉄心齋文庫の伊勢物語の中には、貴重な資料的価値

で知られていたたり、とりわけ美しい書体や装訂を有するものも含まれているが、比較的ありふれた姿を持つ伊勢物語も、数多く見られる。それらのすべての個性や特徴を、芦澤氏ご夫妻は、我が子を見るように、愛情を込めてご覧になっていたのである。

ちなみに、貴重なコレクションを火災や湿気から守るために、芦澤氏は品川区のご自宅に鉄筋の書庫を建てられた。「鉄心斎文庫」という名は、鉄道の架線部品を製造していた「三和テッキ」の会社名にもかわらせながら、その鉄筋の書庫にちなんで命名されたものである。

平成元年（一九八九）に芦澤氏は六十四歳の若さで、多くの人に惜しまれながら他界されたが、美佐子夫人は、三和テッキの社長職を継がれただけでなく、伊勢物語の収集を、ご主人の遺志を継ぐ形でさらに続けられた。そして、平成三年（一九九一）十一月には、小田原市郊外の別宅に「鉄心斎文庫伊勢物語文華館」を開設され、以後、毎年春秋二回の展示会を二十回以上にわたって開催、そのたびごとに展示品の解説図録『鉄心斎文庫伊勢物語図録』（第一～二十一集、および続編）を継続して刊行された。毎回十日間の展示会期間中、美佐子夫人はほぼ毎日小田原に通われ、数多くの来館者の対応に当たられた。

平成十六年（二〇〇四）、ご夫婦の長年の情熱の結晶であるコレクションを、そのままの形で長く世に残すために、美佐子夫人は国文学研究資料館への寄贈を決意され、当時の松野陽一館長との間に「覚書」を交わされた。そこには、散逸させないことや「鉄心斎文庫」の名を残すことのほかに、研究者に広く公開するという項目が、美佐子夫人からの要望として加えられている。

そもそも、新二氏も美佐子夫人も、鉄心斎文庫の閲覧を希望する研究者があれば、たがいに伊勢物語を愛する者どうしとして、常に温かく受け入れられた。我が子とも言うべきコレクションの伊勢物語をもっと知ってほしい、よく調べて本当の価値を見出してほしいというお気持ちと、伊勢物語を愛する人を知己として迎えたいというお気持ちと、そこには常にあったように思われる。芦澤ご夫妻の思いに答え、鉄心斎文庫の伊勢物語をどのように読み、どのように活かし、そこにどのような価値を見出すことができるか。コレクションが寄贈されたいま、その課題は、今後国文研で鉄心斎文庫を目にするすべての人々に課せられている。



昭和57年(1982)の芦澤新二・美佐子ご夫妻  
（『天愛不息—芦澤新二を偲ぶ—』による）

# 伊勢物語の

## かがやき

— 鉄心斎文庫の世界 —

鉄心斎文庫

### 目次

ごあいさつ 国文学研究資料館館長 ロバートキャンベル	1
鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション 山本登朗	2
口絵	5
凡例・執筆者一覧	13
第1章 名品	
伊勢物語の古写本 山本登朗	14
資料解説	15
第2章 描く	
伊勢物語の絵画 大口裕子	17
資料解説	18
第3章 書く	
伊勢物語の書物 加藤洋介	29
資料解説	30
第4章 学ぶ	
伊勢物語の学問 青木賜鶴子	37
資料解説	38
第5章 遊ぶ	
伊勢物語の遊戯 二又淳	53
資料解説	54
第6章 文庫史	
鉄心斎文庫のあゆみ 藤島綾	59
鉄心斎文庫蔵書印	60
作品リスト	61



右隻



左隻



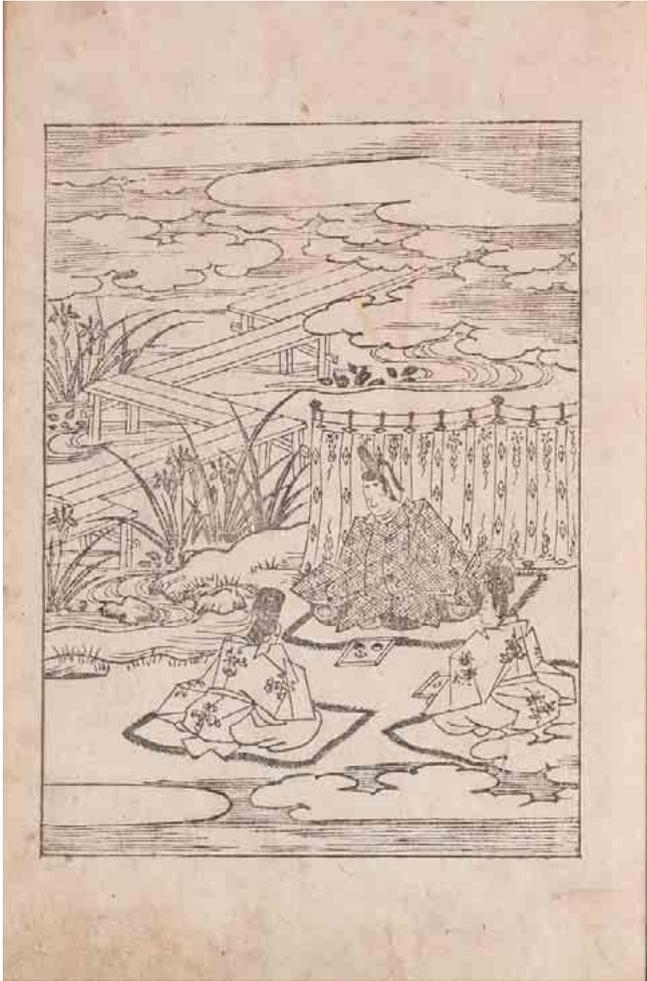
章段比定図 右隻

第29段 花の賀	第8段 浅間の獄	第9段 富士の山	第6段 芥川	第4段 西の対	第3段 ひじき藻	初段 春日の里
第106段 龍田川	第9段 八橋	第9段 宇津の山	第23段 立田越え	第5段 関守	初段 陸奥のしのぶもぢずり	
第27段 盃のかけ	第12段 武蔵野	第20段 春の紅葉	第14段 くたかけ	第9段 隅田川	第7段 かへる波	第18段 白菊
第45段 ゆく蜆		第23段 筒井筒				

章段比定図 左隻

第67段 花の林		第78段 山科の 禪師のみこ	不明 (第66段難波津か)	第68段 住吉の浜	第119段 形見こそ 今はあたなれ	第49段 若草の妹	
	第83段 小野の庵へ 参る					第98段 梅の作り枝	
第101段 あやしき藤の花	第95段 へだつる 間	第93段 たかき いやしき	第87段 布引の流	第50段 行く水に数かく	第87段 海士の漁火	第71段 神の斎垣	第81段 塩釜
			第69段 君や来し				
第60段 花橘	第63段 つとも髪		第82段 渚の院の桜	第65段 恋せじの禊		第80段 衰へたる 家の藤	第51段 人の前栽に菊





とわみ木遠くけにむわぬえきまひひ  
 まわちおさはいよわまほえたつとたも  
 とすたもあうれををそあひ人のいへり  
 きほいたとよひつちも一坂くのえんす  
 ちてまひの心をよめとよひもたへ  
 かゝたまほくまれずつま志あま  
 い敷くまぬるまひけり我思ふ  
 ねまひら水たふぬ人かまひひのうんふ  
 海心やしんかとい有りまあり

作品解説 7 (19ページ)



あまのいひをきくはのほりあつてい  
 とほりあつていよまはれとんまの  
 人あつていよまはれとんまの  
 くまのまはれとんまのいよまはれ  
 いよまはれとんまの  
 あまのいひをきくはのほりあつてい  
 とほりあつていよまはれとんまの  
 人あつていよまはれとんまの  
 くまのまはれとんまのいよまはれ  
 いよまはれとんまの

作品解説 11 (21ページ)



作品解説 13 (22ページ)



作品解説 15 (23ページ)



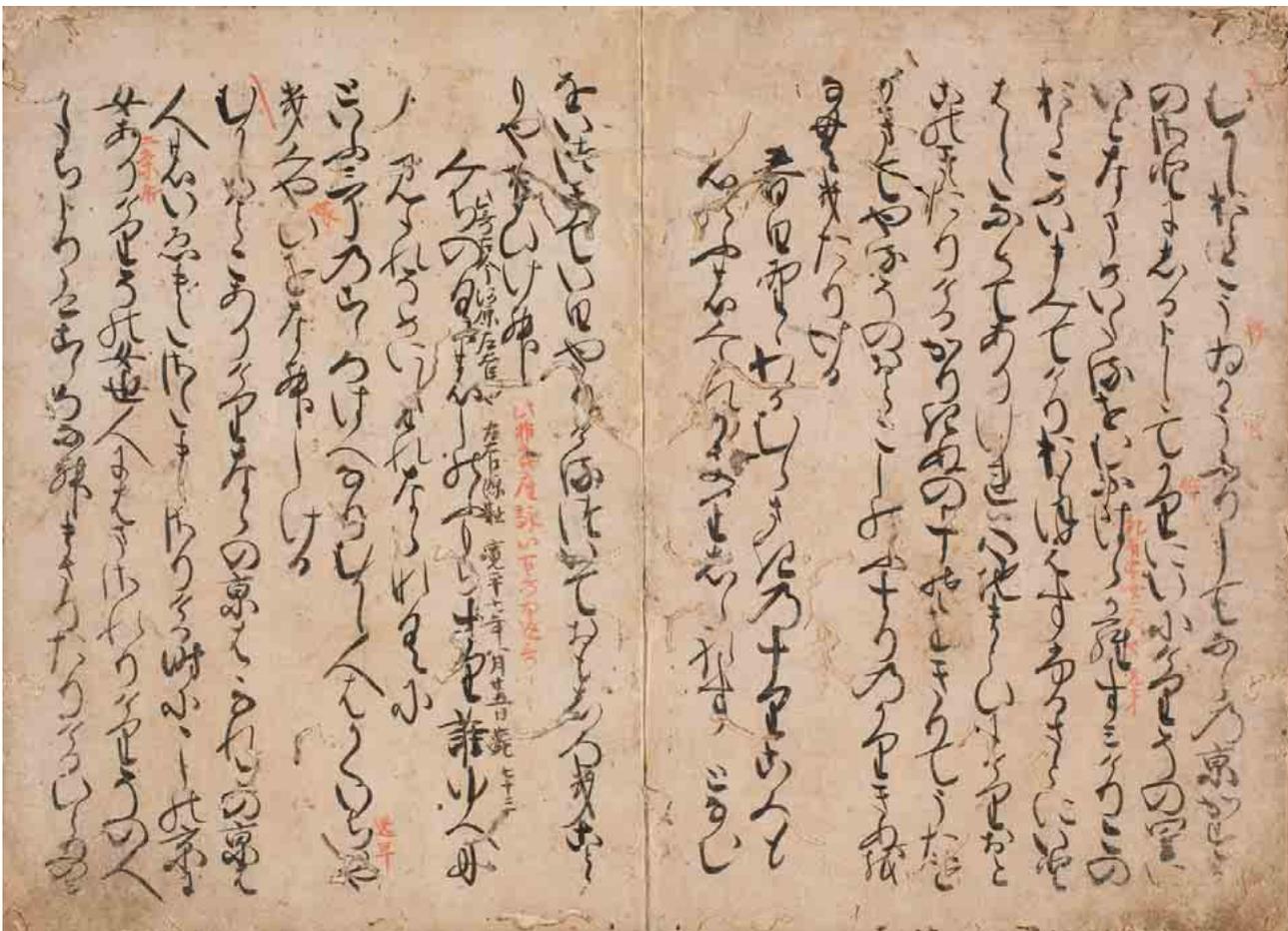
作品解説 16 (23ページ)



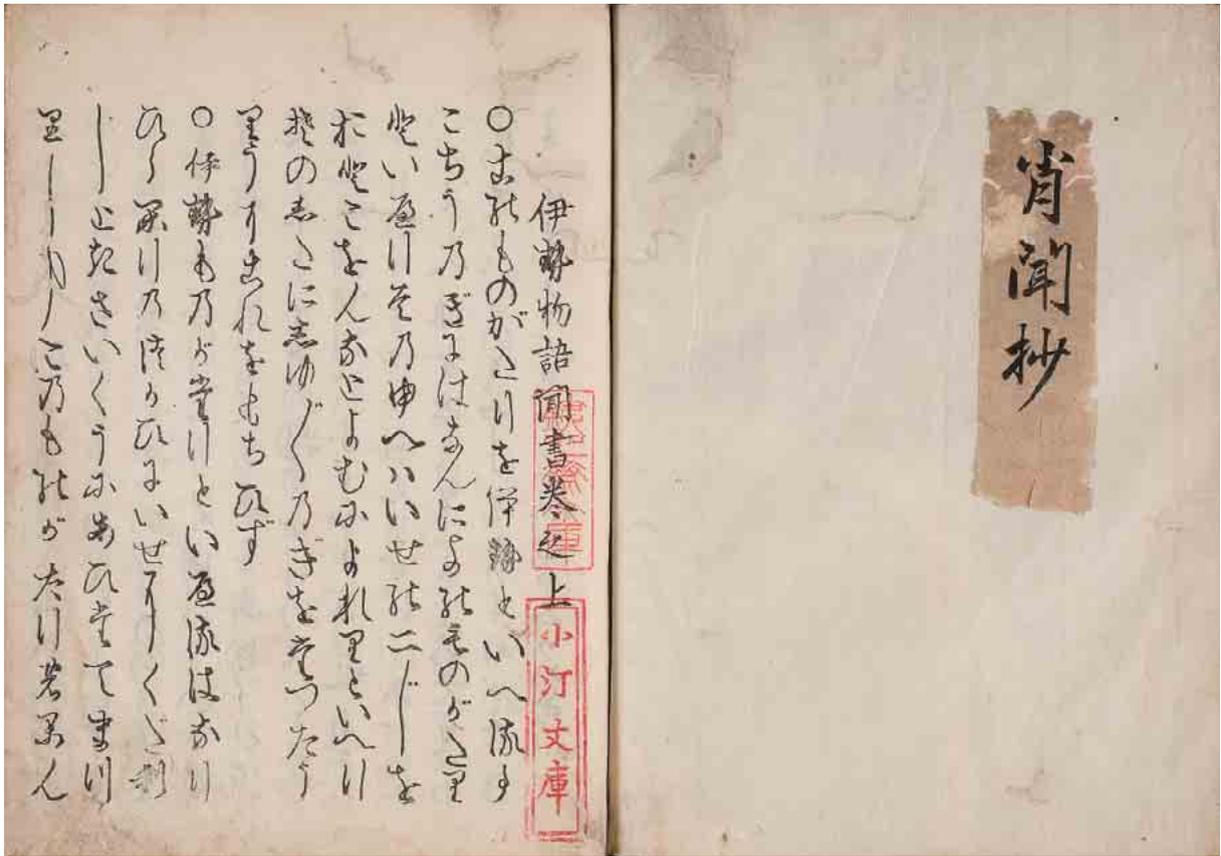
作品解説 26 (28ページ)



作品解説 31 (32ページ)



作品解説 41 (38ページ)



作品解説 56 (46ページ)



作品解説 76 (57ページ)

## 凡例

■本冊子は、国文学研究資料館の特別展示として、二〇一七年十月十一日（水）から十二月十六日（土）まで、国文学研究資料館展示室において開催する「伊勢物語のかがやき―鉄心斎文庫の世界―」の展示解説である。

■本冊子では、原則として各展示セクションの概要を示した後、展示品個別の説明をおこなった。後者は、展示番号、作品名、請求番号（「」内に記す）、時代（推定の場合は「」内に記す）、寸法、装訂、頁数の順に書誌情報を記し、簡単な解説文を付した。割書は（）内に記し、改行は／で示した。なお、解説文中の敬称は省略した。主な参考文献については、以下のとおり表記した。

鉄心斎文庫所蔵伊勢物語図録【第一集】開館記念版↓図録1  
鉄心斎文庫所蔵【菅澤新二コレクション展Ⅳ】伊勢物語とその周辺↓図録Ⅳ  
鉄心斎文庫伊勢物語古注釈叢刊第一巻↓叢刊1  
伊勢物語古注釈大成第一巻↓大成1

■本冊子の作品解説は、国文学研究資料館の基幹研究「鉄心斎文庫伊勢物語資料の基礎的研究」（二〇一六年度～一八年度、研究代表者・小林健二）による研究成果に基づき、その成果報告を含む。

### 執筆者一覧（五十音順）

青木賜鶴子 大阪府立大学教授  
一戸 渉 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授  
海野圭介 国文学研究資料館准教授  
大口裕子 霞会館学芸員  
加藤洋介 大阪大学教授  
神作研一 国文学研究資料館教授  
恋田知子 国文学研究資料館助教  
小林健二 国文学研究資料館教授・研究代表者  
小山順子 国文学研究資料館准教授  
谷川ゆき 海の見える杜美術館学芸員  
田村 隆 東京大学准教授  
藤島 綾 都留文科大学非常勤講師  
二又 淳 明治大学兼任講師  
松本 大 奈良大学講師  
本廣陽子 上智大学准教授  
山本登朗 関西大学教授

### 責任編集

山本登朗・小林健二・小山順子・恋田知子

### 編集協力者

金子 馨 国文学研究資料館機関研究員  
黄 昱 国文学研究資料館機関研究員

# 作品リスト

## 第一章 名品

1	伊勢物語 伝二条為氏筆	列帖装一帖	〔鎌倉期〕写
2	伊勢物語 伝冷泉為相筆	列帖装一帖	〔鎌倉期〕写
3	伊勢物語 伝京極為兼筆	列帖装一帖	〔鎌倉期〕写
4	伊勢物語 伝二条為明筆	列帖装一帖	〔室町初期〕写
第二章 描く			
5	伊勢物語図屏風	六曲一雙	〔江戸中期〕写
6	伊勢物語 嵯峨本第一種	袋綴大本一冊(存卷下)	慶長一三年刊
7	伊勢物語 嵯峨本第二種	袋綴大本二冊	慶長一三年刊
8	伊勢物語 嵯峨本第三種	袋綴大本二冊	慶長一四年刊
9	伊勢物語 嵯峨本第四種	袋綴大本二冊	慶長一五年刊
10	伊勢物語 覆刻整版	袋綴大本合一冊	〔江戸初期〕刊
11	伊勢物語 奈良絵本	列帖装三帖	〔寛文頃〕写
12	伊勢物語 葛岡宣慶筆	列帖装一帖	〔江戸前期〕写
13	伊勢物語 葛岡宣慶筆	列帖装一帖	〔江戸前期〕写
14	伊勢物語画帖	折帖一帖	〔江戸前期〕写
15	伊勢物語絵巻 白描	卷子装一軸	〔江戸中期〕写
16	伊勢物語絵巻 着色	卷子装一軸(存卷四)	〔江戸前期〕写
17	伊勢物語	袋綴大本二冊	寛文二年刊
18	伊勢物語頭書抄	袋綴大本三冊	延宝七年刊
19	伊勢物語大成	袋綴大本三冊	元禄一〇年刊
20	絵入伊勢物語	袋綴中本一冊	享保一四年刊
21	改正伊勢物語	袋綴大本二冊	延享四年刊
22	絵入伊勢物語	袋綴大本二冊	宝曆六年刊
23	新版伊勢物語	袋綴大本二冊	明和四年刊
24	天明新版伊勢物語	袋綴大本二冊	天明七年刊
25	伊勢物語図会	袋綴大本三冊	文政八年刊
26	業平涅槃図 山崎龍女筆	軸装一幅	〔江戸中期〕写
第三章 書く			
27	伊勢物語 伝近衛信尋筆	列帖装一帖	〔江戸前期〕写
28	伊勢物語 伝黒田長興筆	列帖装一帖	〔江戸前期〕写
29	伊勢物語 松平定信筆	列帖装一帖	文政六年写
30	伊勢物語 伝荒木素白筆	単葉装一帖	〔江戸前期〕写
31	伊勢物語 伝中院通村筆	列帖装一帖	〔江戸前期〕写
32	伊勢物語 伝二条為重筆	列帖装一帖	〔南北朝期〕写
33	伊勢物語 中宮寺本	列帖装一帖	〔鎌倉末期〕写
34	伊勢物語 順覚筆	袋綴一冊	暦応四年写
35	伊勢物語 伝一条兼良筆	列帖装一帖	〔室町後期〕写
36	伊勢物語 三条西公条筆・冷泉為村補筆	列帖装一帖	〔室町後期〕写
37	伊勢物語 近衛基嗣筆	列帖装一帖	〔室町期〕写
38	真名伊勢物語 日野資矩筆	列帖装一帖	〔江戸後期〕写
39	伊勢物語 細川幽斎筆・烏丸光広補筆	列帖装一帖	〔室町末江戸初期〕写

## 第四章 学ぶ

40	伊勢物語 古注書入	列帖装一帖	〔室町後期〕写
41	伊勢物語 東常縁筆	列帖装一帖	〔室町中期〕写
42	伊勢物語 唯心筆	袋綴一冊	文明一八年写
43	伊勢物語	袋綴一冊	享禄四年写
44	伊勢物語知頭集	袋綴二冊	寛永六年写
45	増纂伊勢物語抄	袋綴一冊	〔江戸中期〕写
46	伊勢物語奥秘書	袋綴五冊	〔江戸中期〕写
47	伊勢物語髓腦	袋綴一冊	〔室町末期〕写
48	伊勢物語難義注	袋綴一冊	〔室町中期〕写
49	伊勢物語愚見抄 初稿本	折紙列帖装一帖	〔江戸初期〕写
50	伊勢物語山口記	袋綴一冊	天文一八年写
51	伊勢物語肖聞抄	袋綴一冊	〔室町後期〕写
52	伊勢物語惟清抄 聖碩加注	袋綴一冊	〔江戸中期〕写
53	称談集解	袋綴二冊	〔江戸後期〕写
54	ゑいかんの書	列帖装二帖	〔江戸期〕写
55	伊勢物語肖聞抄	袋綴大本三冊	慶長一四年刊
56	伊勢物語肖聞抄	袋綴大本二冊	〔慶長頃〕刊
57	伊勢物語 古活字版	袋綴大本一冊	〔慶長頃〕刊
58	伊勢物語 古活字版・絵入	袋綴大本一冊(存卷上)	〔元和寛永〕刊
59	伊勢物語闕疑抄 古活字十行本	袋綴大本五冊	〔慶長頃〕刊
60	伊勢物語闕疑抄 古活字十二行本	袋綴大本五冊	〔慶長頃〕刊
61	伊勢物語闕疑抄 整版	袋綴大本二冊	寛永一一年刊
62	伊勢物語拾穂抄	袋綴大本五冊	〔延宝頃〕刊
63	勢語臆断	袋綴大本五冊	享和三年刊
64	伊勢物語古意 本居春庭書入本	袋綴大本六冊	寛政五年刊
65	伊勢物語傍注 賀茂季鷹書入本	袋綴大本二冊	安永五年刊
66	伊勢物語傍注 賀茂季鷹他説移写本	袋綴一冊	寛政四年写
67	勢語図抄	袋綴二冊	〔江戸後期〕写
68	伊勢物語新釈 自筆稿本	袋綴五冊	〔文化九年〕写
69	伊勢物語新釈	袋綴大本六冊	文政元年刊
第五章 遊ぶ			
70	仁勢物語	袋綴大本二冊	〔寛永末頃〕刊本の改刻本
71	にせものがたり	袋綴半紙本一冊	明治二年刊
72	いくの、さうし	袋綴半紙本四冊	元禄七年刊
73	いせ物語ひらことば	袋綴大本二巻四冊	延宝六年刊
74	競伊勢物語	袋綴半紙本一冊(存卷上)	安永四年刊
75	戯男伊勢物語	袋綴半紙本五冊	寛政一一年刊
76	伊勢物語かるた	四一八枚	〔江戸中期〕写
77	伊勢物語 山口蓬春筆	軸装一幅	〔大正末昭和初期〕写

国文学研究資料館特別展示

伊勢物語のかがやき  
— 鉄心斎文庫の世界 —

発行日 ◆ 二〇一七年十月五日

発行 ◆ 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館

編集 ◆ 基幹研究「鉄心斎文庫伊勢物語資料の基礎的研究」

◆ 山本登朗・小林健二・小山順子・恋田知子

制作・印刷 ◆ 株式会社 博秀工芸

©二〇一七 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館  
本書の全部、または一部を無断にて転載・複製することを禁じます。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

National Institute of Japanese Literature

所在地: 〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

電話番号: 050-5533-2910

E-mail: kikakukoho@nijl.ac.jp

Web: <http://www.nijl.ac.jp/>